

第50回 川崎市幼児教育研修大会

第8分科会 免許更新研修会

月 日 平成22年1月20日(水)

場 所 中原市民館

講 師 平山 許江先生

テーマ：「幼稚園の役割を広め深める

－現代の幼児教育を考える－」

俯瞰図番号 E5－Ⅲ、E6－Ⅲ

○はじめに

- ・最初、何かを知りたいことがあるとすぐにインターネットで調べてしまうが、まわりを見回すと教えてくれる環境は様々な所にある。例えば子ども電話相談室、昆虫館などその他の専門機関・施設。子どもたちの知りたいと思う気持ちを大切にしながら、調べることの楽しさも伝えるべき。

○幼稚園の役割 (参照：幼稚園教育要領 解説書 P.18)

1. 家庭と連携・連動して1人1人の育ちを促す

●幼児期の教育＝家庭＋幼稚園

- ・家庭と幼稚園では、人間関係が異なる。(家庭＝たて、幼稚園＝よこ)
- ・家庭では共有物(TV・電話・ゲーム)が1人1人あるので、ケンカにならない時代。しかし園ではおもちゃなど共有物を使うためには順番を守らなくてはならない。家庭と園では環境が変わる。

・家庭の暮らしと園の暮らし

園と家庭では顔が変わるのは当たり前だが、今は外べんけいの子が増えている。昔は家庭がのんびりできる場所であった。今は、園で伸び伸び生活し、家庭の方が規制されて生活している子が増えている。そこで、園では何を経験させるかを見直さなければならない。

●幼稚園の役割＝家庭を基盤にしながら家庭では体験できない社会・文化・自然などに

触れ、教師に支えられながら、幼児期なりの世界の豊かさに出会う場所である。

- ・家庭では体験できない社会・文化・自然とは？

→昔は子どものための物を与えることは難しかったので、文化(絵本・歌・絵画製作など)を与えることが大事であった。しかい今は家庭でよい教材・音楽・キラキラしたおもちゃなど便利なものが家庭にあふれている。昔ながらのものは園にある。(ドロンコ・ドタンバタン・虫探し)

※家庭の続きではない“そうじゃないこと”をする。(きれいな花壇ではなく、取っ払い雑草・お花)

※家庭と園でトータル的な暮らしを保障する。

●家庭と幼稚園＝地域

様々な人との交流の機会→豊かな体験(子どもの生活を守りながら、違う家庭環境で過ごしている人々と関わる)

※「豊かさ」に向かう方向性、自分の保育を振り返ってみよう!

2. 幼児の主体的な遊びを十分に確保する

●主体的＝自分の責任・判断で決めること。(子どもが元々持っている力)

①遊びにおいて主体的な力が発揮される。生きる力の基礎＝生きる喜びを味わう

※自分で自分の人生を決めていく

人に言われてやっているのではないことの喜び。

②遊びにおいて能動的にかかわる

好奇心・探索・思考・知識を蓄えるための基礎

※子どもが心を動かして遊んでいるか

自分で目標を持って活動するエネルギー

自分でやろうとする力(高い目標へ)

※やったことをほめるのではなく、やろうとしていることをほめる。そうすることによって自分が出せるようになる。

例・ジャンケンをするねらいは、ルールを守るこ

第8分科会

とではなく、負けることもある、ズルを
すると後悔することなどを感じることが
大切。

③ものや人とのかかわりにおいて自己を表出
する。

・自我の形成・自分を取り巻く社会への感覚
※自我＝外界や他と区別して捉える（他と比
べたり、憧れたりし自分を発見する）

3. 幼児期に育てるべきことを幼児期にふさわ
しい生活を通してしっかり育てる

・人生のスタート時期に何が必要か。
何を知っている、何ができるではない。
子どもの人生（人の人生）とは、知らないこ
と、わからないことに出会っていく人生。
“できない”“やりたくない”と思うか、“やっ
てみよう”と思うか・・・“やってみよう”
と自ら学ぶ力をつけることが大切。

①幼児期：その後の学校教育全体の生活や学
習の基盤を培う役割＝自ら学ぶ意欲・力

②ふさわしい生活：発達に合致している

・運動機能・依存と自立・具体的なものから
イメージを形成・信頼する人の模倣

※甘えたい気持ち（「やって」）と自分でやろう
とする気持ちが共存。

・人と交渉する際に基本的な概念の形成・善
悪の理解と自己抑制（様々な経験を通し）

※善悪がわかってコントロールできる

「自己抑制」の部分は新しく加わった部分

③基礎基本を培う

・ねらいや内容の吟味と、一人ひとりの重点
指導と評価。（何を育てたいと思ったか）

4. 幼児期の教育のセンターとして役割を果た
す

①地域のなかの幼稚園：地域の人の関心→多
様なかかわり→発達を促す

・「このお菓子は～で買ったよ」「この施設～
する所だよ」「この葉っぱは～で拾ったよ」
等、日常から地域への関心を促す。

②保護者の変容を促す：子育てモデルの提供
視野の広がり

・数年後の我が子のモデル・他の子どもから
の情報

・家庭あつての幼稚園、親あつての子ども

③幼児期の教育の先導的役割

・日常の保育をしっかりする

○おわりに

・幼稚園教育についての広報活動

①保育内容（大事にしていること）を伝える

※おたよりなど、やっていることだけでなく何
のためにやっているのか、どこを大切にし
てやっているのかを伝えていく。質を伝え
ていくことが大切。

②関係機関と信頼関係をつくる

③1人1人の教師を通して幼稚園を知ってい
く。

※園長先生は看板、主任はチラシ、担任は商品。